

## 呼吸器センター 外科部門（呼吸器外科）

### 1. スタッフ

教授 遠藤 俊輔  
 外来医長（教授） 長谷川 剛  
 病棟医長（助教） 手塚 憲志  
 講師 坪地 宏嘉  
 助教 大谷 真一  
 助教 金井 義彦  
 助教 遠藤 哲哉  
 シニアレジデント 2名

### 2. 診療科の特徴

あらゆる呼吸器疾患に対して、患者様に負担をかけない胸腔鏡や気管支鏡などの内視鏡下治療を専門としている。

肺癌をはじめとして、肺分画症、肺真菌症、荒蕪肺、肺気腫、気胸、膿胸、悪性胸膜中皮腫、縦隔腫瘍、重症筋無力症、下行性壊死性縦隔炎、手掌多汗症、胸壁・横隔膜疾患、胸部外傷などの疾患に対し多彩な手術を行っている。

自治医科大学附属病院発足当時、呼吸器外科手術は13例に過ぎなかったが、1990年に124例、2000年に210例、2005年には284例と大幅に増加した。2006年の手術数は本邦全病院中20位以内、全大学病院中5位以内に位置する。2007年の肺癌手術は100例を越え、進行肺癌の5年生存率は全国トップクラスである。この内の80%の症例を内視鏡で手術している。

#### 施設認定

日本外科学会外科専門医制度修練指定施設  
 日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設  
 日本呼吸器外科学会指導医制度認定施設  
 呼吸器外科専門医認定機構基幹施設

#### 専門医

日本外科学会認定医：  
 蘇原 泰則、遠藤 俊輔、長谷川 剛、  
 佐藤 幸夫、手塚 憲志、大谷 真一、  
 山本 真一、金井 義彦、手塚 康裕  
 日本外科学会外科専門医：  
 蘇原 泰則、遠藤 俊輔、佐藤 幸夫、  
 手塚 憲志、大谷 真一、山本 真一  
 日本外科学会指導医：  
 蘇原 泰則、遠藤 俊輔、佐藤 幸夫  
 日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医：  
 蘇原 泰則、遠藤 俊輔、佐藤 幸夫、

長谷川 剛、手塚 憲志、大谷 真一、  
 手塚 康裕

日本呼吸器外科学会呼吸器外科指導医：

蘇原 泰則、遠藤 俊輔、佐藤 幸夫

日本胸部外科学会認定医：

蘇原 泰則、遠藤 俊輔、佐藤 幸夫、  
 長谷川 剛

日本胸部外科学会指導医：

蘇原 泰則、遠藤 俊輔、佐藤 幸夫

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定医：

蘇原 泰則、遠藤 俊輔、佐藤 幸夫、  
 長谷川 剛、山本 真一

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医：

蘇原 泰則、遠藤 俊輔、佐藤 幸夫、  
 長谷川 剛、山本 真一

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医：遠藤 俊輔

日本呼吸器学会専門医：蘇原 泰則

日本呼吸器学会指導医：蘇原 泰則

日本臨床腫瘍学会指導医：遠藤 俊輔

日本旅行学会認定医：大谷 真一

日本がん治療認定医機構暫定教育医：

蘇原 泰則、遠藤 俊輔、佐藤 幸夫、  
 長谷川 剛、手塚 憲志、大谷 真一

日本がん治療認定医機構認定医：佐藤 幸夫

### 3. 診療実績

#### 1) 新患者数・再来患者数・紹介率

新患者数	211人
再来患者数	2,769人
紹介率	67.1%

#### 2) 入院患者数

病名	患者数
原発性肺悪性疾患	228
転移性肺悪性疾患	26
肺良性疾患	23
肺嚢胞性疾患	67
縦隔良性疾患	17
縦隔悪性疾患	14
胸壁・横隔膜・胸膜疾患	21
その他	4
合計	400

3-1) 手術症例病名別件数

病名	患者数
原発性肺悪性腫瘍	98
転移性肺悪性腫瘍	18
良性肺腫瘍	12
胸壁腫瘍	2
縦隔腫瘍	25
気管腫瘍	2
重症筋無力症	6
炎症性肺疾患	15
膿胸	11
気胸	45
胸部外傷	3
肺生検(間質性肺炎等)	9
手掌多汗症	1
その他	5
合計	253

6) 悪性腫瘍の疾患別および臨床進行期別ならびに治療別治療成績

肺癌 5年生存率 (1996~2001年手術症例)

I A	83.1%
I B	71.8%
II A	50.0%
II B	53.4%
III A	50.4%
III B	32.7%
IV	66.7%

7) 死亡症例 死因・剖検数・率

	数	剖検数	率
肺癌死	3	0	0
手術関連死	0	0	0

3-2) 手術術式別件数・術後合併症数

	肺癌手術	
	症例数	98
合併症	肺炎	2
	気胸	0
	膿胸	0

8) 主な処置・検査

気管支鏡	191
------	-----

4) 化学療法症例・数

疾患名	件数
原発性肺癌	41
縦隔悪性腫瘍	2

9) カンファランス

毎週火曜日

呼吸器合同カンファランス

(呼吸器外科、呼吸器内科、病理、放射線科)

毎週火曜日

チャートラウンド

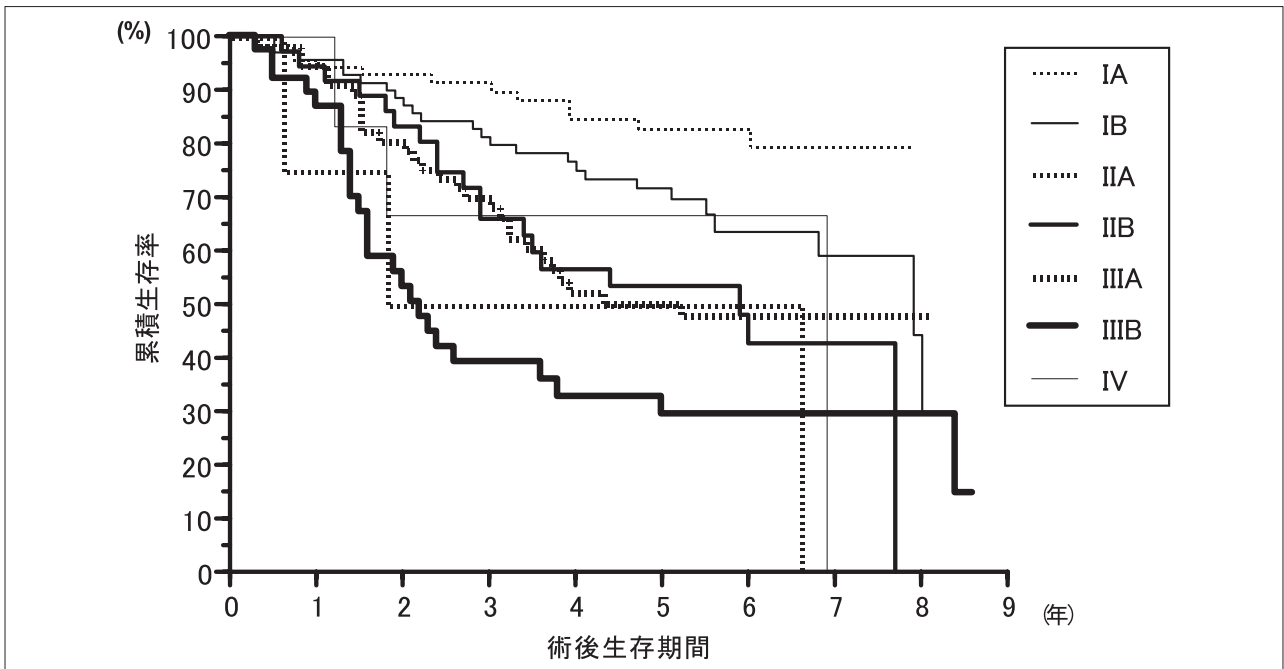
毎週金曜日

クリニカルカンファランス

5) 放射線療法症例・数

疾患名	件数
肺癌	3
縦隔その他	3

Kaplan-Meier



#### 4. 年度の目標

さらなる手術数の増加、手術成績の向上、収益の増加を図る。このためには種々の努力が必要である。単純な手術には積極的にクリニカルパスを導入し、周術期管理の効率化と入院期間の短縮を図る。一方、予後の悪い肺癌や悪性胸膜中皮腫などには、我々が開発した化学免疫療法や拡大根治手術を導入する。また、外来での化学療法を軌道に乗せる。必要に応じて重量子線治療、気管内腔照射、光線力学療法などを専門診療施設に依頼し、最適な治療を患者に提供する。これらの診療を通して新たな治療法を開発する。